

医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読みください。

「効能又は効果」、「用法及び用量」一部変更及び
「使用上の注意」改訂のお知らせ

製造販売元 富士製薬工業株式会社

短時間作用型 β_1 選択的遮断剤

注射用ランジオロール塩酸塩

ランジオロール塩酸塩点滴静注用50mg[F]

ランジオロール塩酸塩点滴静注用150mg[F]

LANDIOLOL HYDROCHLORIDE intravenous for drip use

劇薬・処方箋医薬品^{注)}

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社医薬品につきまして、格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度令和 6 年 4 月 3 日付にて、標記製品の「効能又は効果」「用法及び用量」の一部変更が承認され、これに伴い「使用上の注意」事項につきましても本紙の通り改訂致しました。

今後のご使用に際しましては、本紙の内容をご参照くださいますようお願い申し上げます。

謹白

記

〔1〕改訂内容

(1) 「効能又は効果」、「用法及び用量」

改訂後（下線部改訂箇所）	改訂前
4. 効能又は効果 ○手術時の下記の頻脈性不整脈に対する緊急処置： 心房細動、心房粗動、洞性頻脈 ○手術後の循環動態監視下における下記の頻脈性不整脈に対する緊急処置： 心房細動、心房粗動、洞性頻脈 ○心機能低下例における下記の頻脈性不整脈： 心房細動、心房粗動	4. 効能又は効果 ←（追加） ←（追加） ○心機能低下例における下記の頻脈性不整脈： 心房細動、心房粗動
6. 用法及び用量 ＜手術時の下記の頻脈性不整脈に対する緊急処置： 心房細動、心房粗動、洞性頻脈＞ ランジオロール塩酸塩として、1 分間 0.125mg/kg/min の速度で静脈内持続投与した後、0.04mg/kg/min の速度で静脈内持続投与する。投与中は心拍数、血圧を測定し 0.01～0.04mg/kg/min の用量で適宜調節する。 ＜手術後の循環動態監視下における下記の頻脈性不整脈に対する緊急処置： 心房細動、心房粗動、洞性頻脈＞ ランジオロール塩酸塩として、1 分間 0.06mg/kg/min の速度で静脈内持続投与した後、0.02mg/kg/min の速度で静脈内持続投与を開始する。5～10 分を目安に目標とする徐拍作用が得られない場合は、1 分間 0.125mg/kg/min の速度で静脈内持続投与した後、0.04mg/kg/min の速度で静脈内持続投与する。投与中は心拍数、血圧を測定し 0.01～0.04mg/kg/min の用量で適宜調節する。 ＜心機能低下例における下記の頻脈性不整脈： 心房細動、心房粗動＞ ：省略（変更なし）	6. 用法及び用量 ←（追加） ←（追加） ＜心機能低下例における下記の頻脈性不整脈： 心房細動、心房粗動＞ ：省略

（次ページへ続く）

(2)「使用上の注意」

(該当箇所のみ抜粋)

改訂後（下線部改訂箇所）	改訂前（部削除箇所）																																																												
2. 禁忌(次の患者には投与しないこと) 〈効能共通〉 2.1～2.6 :省略(変更なし) 〈手術時・手術後の頻脈性不整脈に対する緊急処置〉 2.7 うっ血性心不全のある患者〔心機能を抑制し、症状が悪化するおそれがある。〕	2. 禁忌(次の患者には投与しないこと) 2.1～2.6 :省略 ←(追加)																																																												
5. 効能又は効果に関連する注意 〈効能共通〉 5.1 :省略(変更なし) 〈手術時・手術後の頻脈性不整脈に対する緊急処置〉 5.2 洞性頻脈においては、その原因検索及びその除去が重要であることに十分留意するとともに、本剤の効果が心拍数の減少作用であることを踏まえて、本剤は緊急処置として必要に応じて使用すること。〔8.7 参照〕 〈手術後の頻脈性不整脈に対する緊急処置〉 5.3 ICU、CCU 及びそれに準じた全身管理が可能な施設において、循環動態の評価、不整脈診断及び呼吸・循環等の全身管理の十分な経験を持つ医師のもとで、心電図モニターを用い、心拍数の監視、血圧測定を原則として 5 分間隔で、必要ならば頻回に行うこと。〔8.1、8.6 参照〕 〈心機能低下例における頻脈性不整脈〉 5.4 ICU、CCU 及びそれに準じた全身管理が可能な施設において、心不全又は生命に危険のある不整脈に対する治療の経験が十分にある医師のもとで、心電図モニターを用い、心拍数の監視、血圧測定を行うこと。また、本剤の投与により、心不全が悪化するおそれがあるため、経皮的酸素飽和度をモニターする等、心不全の増悪に留意すること。心不全が悪化した際には、本剤の投与を直ちに中止するとともに、ホスホジエステラーゼ阻害薬の投与や大動脈バルーンパンピング、経皮的心肺補助装置を施行する等、適切な処置を行うこと。〔8.1、8.2、8.12 参照〕	5. 効能又は効果に関連する注意 5.1 :省略 ←(追加) ←(追加) 5.2 ICU、CCU 及びそれに準じた全身管理が可能な施設において、心不全又は生命に危険のある不整脈に対する治療の経験が十分にある医師のもとで、心電図モニターを用い、心拍数の監視、血圧測定を行うこと。また、本剤の投与により、心不全が悪化するおそれがあるため、経皮的酸素飽和度をモニターする等、心不全の増悪に留意すること。心不全が悪化した際には、本剤の投与を直ちに中止するとともに、ホスホジエステラーゼ阻害薬の投与や大動脈バルーンパンピング、経皮的心肺補助装置を施行する等、適切な処置を行うこと。〔8.1、8.2、8.6 参照〕																																																												
7. 用法及び用量に関連する注意 〈効能共通〉 7.1～7.2 :省略(変更なし) 7.3 手術時、手術後、心機能低下例に伴う頻脈性不整脈の用法及び用量がそれぞれ異なることに留意すること。 7.4 本剤投与に際しては、下記の体重別静脈内持続投与速度表を参考にする。 精密持続点滴装置(シリンジポンプ又は輸液ポンプ)を使用する場合:表内の単位は投与速度を表示 7.4.1 手術時の頻脈性不整脈に対する緊急処置 (1) 本剤 50mg を 5mL に溶解した場合 <table><tr><th rowspan="2">投与時期</th><th colspan="2">用法及び用量</th><th rowspan="2">適宜調整</th></tr><tr><th>投与開始から 1 分間</th><th>投与開始 1 分後以降</th></tr><tr><td>体重＼投与量</td><td>0.125 mg/kg/min</td><td>0.04 mg/kg/min</td><td>0.01～0.04 mg/kg/min</td></tr><tr><td>30kg</td><td>22.5mL/時</td><td>7.2mL/時</td><td>1.8～ 7.2mL/時</td></tr><tr><td>40kg</td><td>30.0mL/時</td><td>9.6mL/時</td><td>2.4～ 9.6mL/時</td></tr><tr><td>50kg</td><td>37.5mL/時</td><td>12.0mL/時</td><td>3.0～12.0mL/時</td></tr><tr><td>60kg</td><td>45.0mL/時</td><td>14.4mL/時</td><td>3.6～14.4mL/時</td></tr><tr><td>70kg</td><td>52.5mL/時</td><td>16.8mL/時</td><td>4.2～16.8mL/時</td></tr></table> (2) 本剤 50mg を 20mL に溶解した場合 <table><tr><th rowspan="2">投与時期</th><th colspan="2">用法及び用量</th><th rowspan="2">適宜調整</th></tr><tr><th>投与開始から 1 分間</th><th>投与開始 1 分後以降</th></tr><tr><td>体重＼投与量</td><td>0.125 mg/kg/min</td><td>0.04 mg/kg/min</td><td>0.01～0.04 mg/kg/min</td></tr><tr><td>30kg</td><td>90.0mL/時</td><td>28.8mL/時</td><td>7.2～28.8mL/時</td></tr><tr><td>40kg</td><td>120.0mL/時</td><td>38.4mL/時</td><td>9.6～38.4mL/時</td></tr><tr><td>50kg</td><td>150.0mL/時</td><td>48.0mL/時</td><td>12.0～48.0mL/時</td></tr><tr><td>60kg</td><td>180.0mL/時</td><td>57.6mL/時</td><td>14.4～57.6mL/時</td></tr><tr><td>70kg</td><td>210.0mL/時</td><td>67.2mL/時</td><td>16.8～67.2mL/時</td></tr></table>	投与時期	用法及び用量		適宜調整	投与開始から 1 分間	投与開始 1 分後以降	体重＼投与量	0.125 mg/kg/min	0.04 mg/kg/min	0.01～0.04 mg/kg/min	30kg	22.5mL/時	7.2mL/時	1.8～ 7.2mL/時	40kg	30.0mL/時	9.6mL/時	2.4～ 9.6mL/時	50kg	37.5mL/時	12.0mL/時	3.0～12.0mL/時	60kg	45.0mL/時	14.4mL/時	3.6～14.4mL/時	70kg	52.5mL/時	16.8mL/時	4.2～16.8mL/時	投与時期	用法及び用量		適宜調整	投与開始から 1 分間	投与開始 1 分後以降	体重＼投与量	0.125 mg/kg/min	0.04 mg/kg/min	0.01～0.04 mg/kg/min	30kg	90.0mL/時	28.8mL/時	7.2～28.8mL/時	40kg	120.0mL/時	38.4mL/時	9.6～38.4mL/時	50kg	150.0mL/時	48.0mL/時	12.0～48.0mL/時	60kg	180.0mL/時	57.6mL/時	14.4～57.6mL/時	70kg	210.0mL/時	67.2mL/時	16.8～67.2mL/時	7. 用法及び用量に関連する注意 7.1～7.2 :省略 ←(追加) 7.3 本剤投与に際しては、下記の体重別静脈内持続投与速度表を参考にする。 精密持続点滴装置(シリンジポンプ又は輸液ポンプ)を使用する場合:表内の単位は投与速度を表示 ←(追加) ←(追加)
投与時期		用法及び用量			適宜調整																																																								
	投与開始から 1 分間	投与開始 1 分後以降																																																											
体重＼投与量	0.125 mg/kg/min	0.04 mg/kg/min	0.01～0.04 mg/kg/min																																																										
30kg	22.5mL/時	7.2mL/時	1.8～ 7.2mL/時																																																										
40kg	30.0mL/時	9.6mL/時	2.4～ 9.6mL/時																																																										
50kg	37.5mL/時	12.0mL/時	3.0～12.0mL/時																																																										
60kg	45.0mL/時	14.4mL/時	3.6～14.4mL/時																																																										
70kg	52.5mL/時	16.8mL/時	4.2～16.8mL/時																																																										
投与時期	用法及び用量		適宜調整																																																										
	投与開始から 1 分間	投与開始 1 分後以降																																																											
体重＼投与量	0.125 mg/kg/min	0.04 mg/kg/min	0.01～0.04 mg/kg/min																																																										
30kg	90.0mL/時	28.8mL/時	7.2～28.8mL/時																																																										
40kg	120.0mL/時	38.4mL/時	9.6～38.4mL/時																																																										
50kg	150.0mL/時	48.0mL/時	12.0～48.0mL/時																																																										
60kg	180.0mL/時	57.6mL/時	14.4～57.6mL/時																																																										
70kg	210.0mL/時	67.2mL/時	16.8～67.2mL/時																																																										

改訂後（下線部改訂箇所）	改訂前（部削除箇所）																																																																														
7.4.2 手術後の頻脈性不整脈に対する緊急処置 (1) 本剤 50mg を 5mL に溶解した場合 <table><tr><th rowspan="2">投与時期</th><th colspan="2">開始用量</th><th colspan="2">最大用量</th></tr><tr><th>投与開始 から 1 分間</th><th>投与開始 1 分後以降</th><th>投与開始 から 1 分間</th><th>投与開始 1 分後以降</th></tr><tr><td>体重\ 投与量</td><td>0.06 mg/kg/min</td><td>0.02 mg/kg/min</td><td>0.125 mg/kg/min</td><td>0.04 mg/kg/min</td></tr><tr><td>30kg</td><td>10.8mL/時</td><td>3.6mL/時</td><td>22.5mL/時</td><td>7.2mL/時</td></tr><tr><td>40kg</td><td>14.4mL/時</td><td>4.8mL/時</td><td>30.0mL/時</td><td>9.6mL/時</td></tr><tr><td>50kg</td><td>18.0mL/時</td><td>6.0mL/時</td><td>37.5mL/時</td><td>12.0mL/時</td></tr><tr><td>60kg</td><td>21.6mL/時</td><td>7.2mL/時</td><td>45.0mL/時</td><td>14.4mL/時</td></tr><tr><td>70kg</td><td>25.2mL/時</td><td>8.4mL/時</td><td>52.5mL/時</td><td>16.8mL/時</td></tr></table> (2) 本剤 50mg を 20mL に溶解した場合 <table><tr><th rowspan="2">投与時期</th><th colspan="2">開始用量</th><th colspan="2">最大用量</th></tr><tr><th>投与開始 から 1 分間</th><th>投与開始 1 分後以降</th><th>投与開始 から 1 分間</th><th>投与開始 1 分後以降</th></tr><tr><td>体重\ 投与量</td><td>0.06 mg/kg/min</td><td>0.02 mg/kg/min</td><td>0.125 mg/kg/min</td><td>0.04 mg/kg/min</td></tr><tr><td>30kg</td><td>43.2mL/時</td><td>14.4mL/時</td><td>90.0mL/時</td><td>28.8mL/時</td></tr><tr><td>40kg</td><td>57.6mL/時</td><td>19.2mL/時</td><td>120.0mL/時</td><td>38.4mL/時</td></tr><tr><td>50kg</td><td>72.0mL/時</td><td>24.0mL/時</td><td>150.0mL/時</td><td>48.0mL/時</td></tr><tr><td>60kg</td><td>86.4mL/時</td><td>28.8mL/時</td><td>180.0mL/時</td><td>57.6mL/時</td></tr><tr><td>70kg</td><td>100.8mL/時</td><td>33.6mL/時</td><td>210.0mL/時</td><td>67.2mL/時</td></tr></table> 7.4.3 成人の心機能低下例における頻脈性不整脈 :省略(変更なし) 〈手術後の頻脈性不整脈に対する緊急処置、心機能低下例における頻脈性不整脈〉 7.5 本剤投与により血圧低下(収縮期血圧 90mmHg を目安とする)あるいは過度の心拍数減少(心拍数 60 回/分を目安とする)が生じた場合は、減量するか投与を中止すること。 〈手術時・手術後の頻脈性不整脈に対する緊急処置〉 7.6 本剤を再投与する際の投与間隔は 5～15 分間を目安とすること。なお、再投与は用法及び用量に従って実施すること。 [16.1.1-16.1.3、17.1.2 参照] 〈心機能低下例における頻脈性不整脈〉 7.7 心拍数及び血圧等に十分に注意し、慎重に、狭い用量幅で用量を調節すること。[17.1.5 参照]	投与時期	開始用量		最大用量		投与開始 から 1 分間	投与開始 1 分後以降	投与開始 から 1 分間	投与開始 1 分後以降	体重\ 投与量	0.06 mg/kg/min	0.02 mg/kg/min	0.125 mg/kg/min	0.04 mg/kg/min	30kg	10.8mL/時	3.6mL/時	22.5mL/時	7.2mL/時	40kg	14.4mL/時	4.8mL/時	30.0mL/時	9.6mL/時	50kg	18.0mL/時	6.0mL/時	37.5mL/時	12.0mL/時	60kg	21.6mL/時	7.2mL/時	45.0mL/時	14.4mL/時	70kg	25.2mL/時	8.4mL/時	52.5mL/時	16.8mL/時	投与時期	開始用量		最大用量		投与開始 から 1 分間	投与開始 1 分後以降	投与開始 から 1 分間	投与開始 1 分後以降	体重\ 投与量	0.06 mg/kg/min	0.02 mg/kg/min	0.125 mg/kg/min	0.04 mg/kg/min	30kg	43.2mL/時	14.4mL/時	90.0mL/時	28.8mL/時	40kg	57.6mL/時	19.2mL/時	120.0mL/時	38.4mL/時	50kg	72.0mL/時	24.0mL/時	150.0mL/時	48.0mL/時	60kg	86.4mL/時	28.8mL/時	180.0mL/時	57.6mL/時	70kg	100.8mL/時	33.6mL/時	210.0mL/時	67.2mL/時	←(追加) ←(追加) 7.3.1 成人の心機能低下例における頻脈性不整脈 :省略 7.4 本剤投与により血圧低下(収縮期血圧 90mmHg を目安とする)あるいは過度の心拍数減少(心拍数 60 回/分を目安とする)が生じた場合は、減量するか投与を中止すること。 ←(追加) 7.5 心拍数及び血圧等に十分に注意し、慎重に、狭い用量幅で用量を調節すること。[17.1.1 参照]
投与時期		開始用量		最大用量																																																																											
	投与開始 から 1 分間	投与開始 1 分後以降	投与開始 から 1 分間	投与開始 1 分後以降																																																																											
体重\ 投与量	0.06 mg/kg/min	0.02 mg/kg/min	0.125 mg/kg/min	0.04 mg/kg/min																																																																											
30kg	10.8mL/時	3.6mL/時	22.5mL/時	7.2mL/時																																																																											
40kg	14.4mL/時	4.8mL/時	30.0mL/時	9.6mL/時																																																																											
50kg	18.0mL/時	6.0mL/時	37.5mL/時	12.0mL/時																																																																											
60kg	21.6mL/時	7.2mL/時	45.0mL/時	14.4mL/時																																																																											
70kg	25.2mL/時	8.4mL/時	52.5mL/時	16.8mL/時																																																																											
投与時期	開始用量		最大用量																																																																												
	投与開始 から 1 分間	投与開始 1 分後以降	投与開始 から 1 分間	投与開始 1 分後以降																																																																											
体重\ 投与量	0.06 mg/kg/min	0.02 mg/kg/min	0.125 mg/kg/min	0.04 mg/kg/min																																																																											
30kg	43.2mL/時	14.4mL/時	90.0mL/時	28.8mL/時																																																																											
40kg	57.6mL/時	19.2mL/時	120.0mL/時	38.4mL/時																																																																											
50kg	72.0mL/時	24.0mL/時	150.0mL/時	48.0mL/時																																																																											
60kg	86.4mL/時	28.8mL/時	180.0mL/時	57.6mL/時																																																																											
70kg	100.8mL/時	33.6mL/時	210.0mL/時	67.2mL/時																																																																											
8. 重要な基本的注意 〈効能共通〉 8.1 心電図による監視、血圧の測定等、心機能をモニターしながら投与すること。血圧低下又は徐脈を認めた場合等は減量あるいは投与を中止し、必要に応じて適切な処置を行うこと。また、PQ 時間が過度に延長した場合、投与を中止すること。[5.3、5.4、13.1 参照] 8.2～8.3 :省略(変更なし) 8.4 心房細動及び心房粗動に対する使用に際しては、本剤の効果が心拍数の減少であることに留意し、頻脈性(型)であることを確認すること。[17.1.4 参照] 8.5 本剤の心拍数の減少効果は、投与終了後、速やかに減弱するものの、この効果の消失には投与終了後 30～60 分を要することに留意すること。[17.1.1 参照] 〈手術時・手術後の頻脈性不整脈に対する緊急処置〉 8.6 大侵襲手術後等の心拍出量が低下している患者に本剤を投与する場合、本剤投与開始前の心機能を慎重に観察するとともに、心電図による監視、血圧の測定に加え、心拍出量及び血液ガス等の心機能をモニターし、患者の全身状態を十分管理しながら投与すること。[5.3 参照] 8.7 洞性頻脈に対して本剤を投与する場合は、心筋虚血や心不全等の発生及びその悪化のおそれのある患者における頻脈処置の必要性を十分考慮し、患者の基礎疾患、合併症の内容、手術前の状態及び手術内容等の事前の患者情報を精査した上で、頻脈の治療が必要とされる場合にのみ適用を考慮すること。[5.2 参照] (次ページへ続く)	8. 重要な基本的注意 8.1 心電図による監視、血圧の測定等、心機能をモニターしながら投与すること。血圧低下又は徐脈を認めた場合等は減量あるいは投与を中止し、必要に応じて適切な処置を行うこと。また、PQ 時間が過度に延長した場合、投与を中止すること。[5.2、13.1 参照] 8.2～8.3 :省略 8.4 心房細動及び心房粗動に対する使用に際しては、本剤の効果が心拍数の減少であることに留意し、頻脈性(型)であることを確認すること。 8.5 本剤の心拍数の減少効果は、投与終了後、速やかに減弱するものの、この効果の消失には投与終了後30～60分を要することに留意すること。 ←(追加) ←(追加)																																																																														

改訂後（下線部改訂箇所）	改訂前（部削除箇所）
8.8 心不全の徴候又は症状が見られた場合は本剤を直ちに中止し、適切な処置を行うこと。また、本剤投与前に適切な緊急措置が可能となるように準備しておくこと。必要に応じてアトロピン、β_1 刺激剤、輸液や昇圧剤等を準備しておくことが望ましい。[11.1.3 参照] 8.9 本剤は緊急治療を要する場合に短期間のみ適応すること。患者の状態を十分観察し、緊急治療の必要が無くなった場合は、漫然と継続投与しないこと。 〈手術時の頻脈性不整脈に対する緊急処置〉 8.10 本剤投与 5～10 分を目安として、目標とする心拍数の低下が得られない場合は、本剤投与を中止し、適切な処置を行うこと。 〈手術後の頻脈性不整脈に対する緊急処置〉 8.11 本剤投与 5～10 分を目安として、目標とする心拍数の低下が得られない場合は、最大用量に増量するか、本剤投与を中止し、適切な処置を行うこと。 〈心機能低下例における頻脈性不整脈〉 8.12 本剤の投与により心不全が悪化するおそれがあり、重篤な状態に陥るおそれがあるため、心不全の悪化に常に注意すること。[5.4、9.1.8、11.1.3 参照] 8.13～8.14 :省略(変更なし)	←(追加) ←(追加) ←(追加) ←(追加) 8.6 本剤の投与により心不全が悪化するおそれがあり、重篤な状態に陥るおそれがあるため、心不全の悪化に常に注意すること。[5.2、11.1.3 参照] 8.7～8.8 :省略
9. 特定の背景を有する患者に関する注意 9.1 合併症・既往歴等のある患者 〈効能共通〉 9.1.1～9.1.7 :省略(変更なし) 〈手術時・手術後の頻脈性不整脈に対する緊急処置〉 9.1.8 左室収縮機能障害のある患者 心機能を抑制し、症状が悪化するおそれがある。[8.12参照] 〈心機能低下例における頻脈性不整脈〉 9.1.9 非代償性心不全の患者 :省略(変更なし)	9. 特定の背景を有する患者に関する注意 9.1 合併症・既往歴等のある患者 9.1.1～9.1.7 :省略 ←(追加) 9.1.8 非代償性心不全の患者 :省略
11. 副作用 11.1 重大な副作用 11.1.3 心不全 (0.1%) 心不全の急激な増悪があらわれるおそれがある。[8.8、8.12、9.1.9 参照]	11. 副作用 11.1 重大な副作用 11.1.3 心不全 (0.1%) 心不全の急激な増悪があらわれるおそれがある。[8.6、9.1.8 参照]

◆改訂理由

令和6年4月3日に本剤の効能効果として、「手術時の下記の頻脈性不整脈に対する緊急処置：心房細動、心房粗動、洞性頻脈」、「手術後の循環動態監視下における下記の頻脈性不整脈に対する緊急処置：心房細動、心房粗動、洞性頻脈」の承認を取得したことにより改訂を行いました。

[2] 添付文書改訂年月

2024年4月改訂

[3] DRUG SAFETY UPDATE 医薬品安全対策情報 (DSU) 掲載

No. 326 (2024年5月発行予定)

以上

最新の電子化された添付文書は、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」(<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>) 及び弊社ホームページ「医療関係者の皆さまへ」(<https://www.fuji-pharma.jp/confirm/index>) でご覧いただくことができます。また、添付文書閲覧アプリ「添文ナビ」を利用し、GS1 バーコードを読み取ることでご覧いただくこともできます。

ランジオール塩酸塩点滴静注用「F」



(01)14987431292002

【本文書に関するお問い合わせ先】

富士製薬工業株式会社 安全管理グループ
〒939-3515 富山県富山市水橋辻ヶ堂 1515 番地
TEL:076-479-9175 FAX:076-479-1989

【製品情報に関するお問い合わせ先】

富士製薬工業株式会社 くすり相談室
TEL:0120-956-792 FAX:076-478-0336
電話受付時間 9:00～17:00 (土日祝日、弊社休日除く)